

1. 目ざす学校の姿

開校以来 27 年の歴史と伝統によって培われてきた校風や精神、地域社会とのつながりを基盤に、21 世紀を主体的にたくましく生き抜く子ども達を育てる教育を行う。

そこで、教育目標を「人権尊重の精神を基盤に、自主性と創造性に富み、心身共に健康で未来社会に貢献する子どもの育成を図る。」とし、

創造（よく学び考える 豊かな発想を持つ 自分らしさを発揮する）

実行（すすんで行動する 励まし合い高め合う 人のために役立つ）

笑顔（明るくたくましい心と健康な身体をもつ とともに伸びる喜びを知る）

の三つを目ざす児童像とした。

そのために、教職員と保護者、地域とが理解と信頼を深め、温かな人間関係を育み英知を結集して、次のような学校を目ざして学校づくりを進める。

一人一人を大切にする学校（互いの人権が尊重され、個性が生きる学校）

教職員の総力を結集し高め合う学校（P D C A サイクルを大切にする学校）

学習の効果を高める環境づくりに努める学校（豊かな心を育む環境の整った学校）

家庭や地域社会との連携を大切にする学校（教職員や保護者、地域住民が共に育つ学校）

時代の変化や要請に対応できる学校（教育課題に対応できる学校）

2. 中期的な目標と方策

本校の伝統と歴史をふまえながら、現在の児童の実態を見つめ直し、今後に向けての基盤となる様々な改革を進めていく。学校と保護者との信頼関係の強化、校内運営組織の改編、指導計画の整備、指導方法の工夫、教育相談機能の充実などである。また、育てたい子ども像を

- ・生涯を通じて、学び続けることができる子
- ・基礎的、基本的な知識、技能と学ぶための方法を習得し高い学習意欲を持つ子
- ・人間や社会を愛し、協力し合ってよりよい社会生活ができる子
- ・コミュニケーション能力が高く、他とのつながりを大切にし相手を思いやる子
- ・自分の安全や健康の保持増進に努めるとともに、困難に立ち向かう強い精神力を持ちたくましく生きる子

とした。

一方、本校の児童数は 342 名で昨年より 1 学級減である。児童数が少なくなり教員の人数も限られてくる中で、校務分掌の仕事内容の精選や、学年や学校全体で子ども達を見守り指導していく協力指導体制が必要になってくる。

こうした実態の中で、目ざす学校の姿を実現するためには、学校経営に関する方向や計画を明確にし、教職員や保護者の共通理解を深め、組織的な教育力を発揮することが重要である。

そこで、中期的目標を次のように設定し、その方策を示す。

(1) 生涯学習社会を生き抜くための自己教育力の芽を育てる

- ・児童にとってより分かり、楽しい授業を工夫し学ぶ意欲を育てる。

- ・児童が主体となった学習活動を進め、学び方を身につけさせる。
 - ・基礎基本となる知識や技能を確実に習得させる。
- (2) 基本的な生活習慣を育てる
- ・校内の生活指導体制を整え、道徳教育との関連を図り、全職員の共通理解のもとに、計画的で組織的な指導を進める。
 - ・保護者への呼びかけや、情報提供を豊富にし、連携して指導の徹底を図る。
- (3) 人とかわりながら、人権意識を磨き、豊かな社会生活を送る能力を育てる
- ・互いに認め合い、励まし合える温かな学級経営を全校で実施する。
 - ・地域班活動や縦割り班活動を体験させ、課題を解決する中で社会性を育てる。
- (4) 美しい心を育てると共に美しい環境を作り上げる
- ・全体計画に基づいた道徳教育を推進し真、善、美の心を育てる。
 - ・校内掲示の工夫、植栽の手入れを継続的に行い視覚的に美しい環境を作る。
 - ・清掃活動を充実させ、教職員と児童が一体となって校内美化に努める。
- (5) 児童にとって分かりやすく学べる授業を実現するための指導方法を開発していく
- ・学年主任を中心に学年一体の指導態勢を整え、確実に安定した指導を進める。
 - ・校内研究を軸とした研究活動を活発に行い、指導力を磨く。
- (6) 教職員と保護者や地域住民とのつながりを培い、一体となった教育を進める
- ・保護者や地域住民への情報提供を活発に行っていく。
 - ・学校支援ボランティアの教育活動への参加を積極的に進める。

3. 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

中期目標の達成を旨として、次のような取り組み目標とそのための方策を示す。

基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学力を向上させる

- ・自ら学ぶ力を育てる問題解決学習を授業改善の柱に据え全学級で取り組む。
- ・漢字の読み書き、計算力など、習得型学習内容は反復練習を行い確実に習得させる。
- ・体験や操作活動を十分に行わせ、学ぶ楽しさに気づかせ学習意欲を高める。
- ・学習規律を確実に身につけさせ、落ち着いて学習する態度を育てる。

多様な運動経験をとおして体力の向上を図る

- ・低、中学年は運動遊びや多様な動きをつくる運動中心にのびのびと身体を動かす楽しさを味わわせる。(体を動かす時間を20分以上とする)
- ・高学年は自らの体力を意識させ。持久力や筋力などを高める運動を、ねらいをもって行わせる。(心拍数が120以上上がる運動を5分以上続けさせる)

学校生活を通して、社会の一員として生活できる力を育てる

- ・教職員の共通理解のもと、生活指導の体制を強化し、指導の徹底をはかる。
- ・具体的な目標を設定して保護者と連携した指導を進める。
- ・集団生活をする上で、必要な決まりと礼儀を確実に身につけさせる。
- ・全体指導と共に、一人一人の児童の心を理解し温かな指導を進めていく。

- ・縦割り班活動を充実させ、自主的によりよい集団を作り上げていく力を養う。

道徳教育の充実を図り、温かで豊かな心を育てる

- ・年間の道徳授業を、35時間以上確実にを行う。
- ・児童の身近な生活の中にある道徳的な価値について気づかせ、道徳と生活の一体化を図っていく。
- ・体験や出会い等を工夫し、人とのふれあいが豊富な道徳の授業を工夫していく。

保護者や地域住民への情報発信を工夫し、共に教育を進める

- ・学校便りや学年便り、授業参観や学校公開を行ったり、HPを公開したりして情報の発信を豊富にする。
- ・地域を教材にした学習活動を行い、児童が地域の方々と触れ合う機会を増やす。
- ・公共機関との連携や地域行事への参加、そして安全パトロールをしたりする中で、教職員の地域理解を深める。

(2) 重点目標と方策

今年度の重点目標を定め、実現のための方策を示すと共に、数値目標を設定する。

校内研究の取り組みを、日常の授業の中で実践していく。学習内容に応じて全教師が問題解決学習を計画し、実践できるようにする。

学年の配当定着率を1・2年生(平均85%以上)3・4年生(平均80%以上)5・6年生(平均75%以上とする。

- ・ドリル等を使用しくり返し練習し、学期毎にテストにより評価する。

学年の算数の計算領域について、全学年で平均定着率を80%以上とする。

- ・ドリル等を使用しくり返し練習し、学期毎にテストで評価する。

学習規律の向上を図る。全ての学級で「学習の心構え」を意識した取り組みをする。

- ・評価は自己評価と他者の二面から行い意識した行動がとれるように指導する。